

「こころ」のポケット

奈良県道徳教育振興会議委員

青少年育成奈良県民会議 会長 中西 幸雄

幾山河越えさりゆかばさびしさの 果てなん国ぞ 今日も旅ゆく (牧水)

青年期、それは、人生の中で内面的な激動の時代であり、孤独とのたたかいの年ごろでもある。そこをどう生き抜き、人生の未来を築いていくかが大きな課題である。その課題を克服していくためには、多くを学び選択肢を豊富にするほかない。

正義感に燃えている時代でもあるだけに、ともすれば「あれかこれか」で事を決しようと焦りがちであるが、まず他人と接し、経験し、価値判断の材料をたくさんもつことではなかろうか。かたくなになりすぎると、堂々巡りをすることになり、蟻地獄にはまりこむことになり、身動きがとれなくなってしまふ。

人は、共に生きねばならない生き物である。共に生きるためにルールをつくっている。それは守られなければいけない。スポーツやゲームも、ルールを守ってこそ他と共に楽しむことができるものであることは、すでに理解していることであろう。

自分を研ぎ、他者を思いやり、誤りがあればためらうことなく修正する能力をもつことが、成熟の条件である。それには豊かな「こころ」が求められる。それは、いうまでもなく、「こころ」のポケットに、多くの知識、経験、そして共感と感動の感情を詰め合わせたものが収納されていることである。

喜怒哀楽の感情をコントロールする能力を、成長途上の青年に期待したい。

